

第2期飯田市中心市街地活性化基本計画の概要



飯田市 産業経済部 商業・市街地活性化課

① 計画概要



1. 計画認定 平成26年3月28日 内閣総理大臣認定
2. 計画名称 第2期飯田市中心市街地活性化基本計画
3. 計画期間 平成26年4月～平成31年3月
4. 基本理念 都市経営一再生へのマネジメント（第1期計画と同一）
5. 計画区域 約151ha（第1期計画と同一）
6. 計画事業 60事業
市街地の整備：21事業、都市福利の推進：8事業、まちなか居住の促進：4事業、
商業の活性化：21事業、公共交通機関の利便性の増進：6事業

②基本計画の区域



■区域面積 約151ha



③ 中心市街地の位置づけ

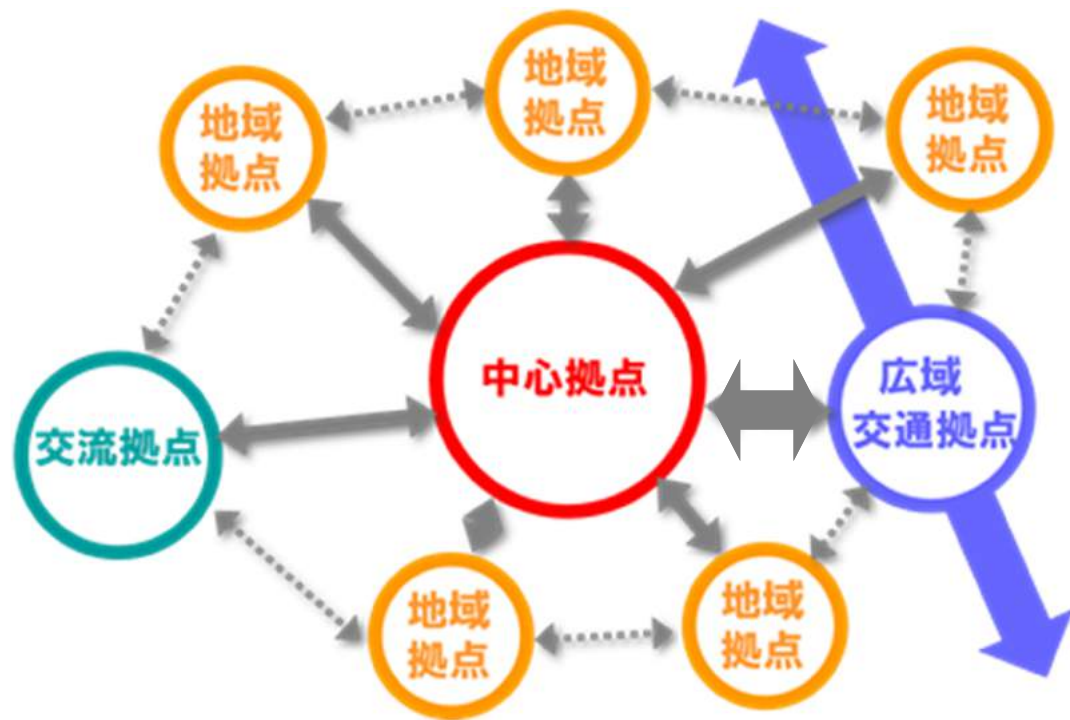


■ 土地利用基本方針における位置づけ

中心拠点、地域拠点及び交流拠点並びに広域交通拠点が、それぞれの役割に応じて機能分担がなされ、有機的に相互連携した「拠点集約連携型都市構造」を推進する。

■ リニア推進ロードマップにおける位置づけ

「リニア中央新幹線の開業を見据えた基盤整備の考え方」により、リニア飯田駅及び駅周辺を「広域交通の拠点」とし、中心市街地と現JR飯田駅を「中心拠点」、各地区中心部を「地域拠点」として位置付け、それぞれを結ぶ交通ネットワークの構築をする。



【中心拠点】

様々な都市機能が蓄積され、都市の中心としての機能を持ち、いわゆる飯田市の「顔」である中心市街地を「中心拠点」として位置づける。

【地域拠点】

各地区の市役所自治振興センターや公民館等のコミュニティ施設が集積された中心部を「地域拠点」と位置づける。

【交流拠点】

天竜峡エコバレー地域を環境、産業、生活等の新たな「交流拠点」として位置づける。

【広域交通拠点】

リニア駅及びその周辺区域を地域と大都市とを結ぶ「広域交通拠点」として位置づける。

④ 中心市街地の課題と将来像



重点課題

地域の魅力のさらなる向上

飯田らしい個性と飯田ならではの魅力に富む都市形成

商店街活性化

新たな視点による魅力的な店舗群の創造

まちなか居住の推進

当地域にふさわしい居住のあり方の追究

交通基盤の強化

公共交通の利用促進等、総合的な交通戦略

中心市街地の将来像

リニア中央新幹線の開通を見据え、中心市街地(中心拠点)の魅力や求心力(中心性)をたかめることにより、そのメリットを飯田下伊那地域全体へとつないでいく。

交流	様々な世代による主体的な活動と交流・連携を育む 歩いて楽しい潤いと安らぎに満ちた空間の創出
産業	多様なライフスタイルを可能とする 知財・ソフト・デザインなど新たな産業分野と人材の誘導
居住	心豊かな暮らしを実現できる 低炭素で魅力ある都市基盤(住まい・オフィス・乗り物)づくり

中心市街地の将来像をつくり上げていくための拠点

りんご並木
並木通りと中央公園がつくり出す緑のネットワーク
並木通りと中央公園が交差する周辺
飯田駅周辺
橋北地区(仲ノ町周辺)の歴史的街並み



小さな世界都市の実現

⑤ 中心市街地の将来イメージ

(これから議論を深めていくためのたたき台)



■りんご並木将来イメージ



■飯田駅周辺将来イメージ



■中央公園周辺将来イメージ



■環境共生型集合住宅イメージ



⑥基本方針と目標



■基本方針

アクセスしやすい
都市交通基盤整備

多様な主体の連携と交流
によるまちづくりの推進

地域固有の価値の
再認識

暮らしの視点からの
新たな価値創造

■活性化の目標

目標1
人々の交流による
にぎわいの回復

目標2
地域の魅力再発見による
文化的暮らしの創造

目標3
環境に配慮し安心
安全な暮らしの実現

■数値目標

歩行者・自転車
通行量(土曜日)

歩行者・自転車
通行量(平日)

文化交流施設
利用者数(年間)

都市福利施設
利用者数(年間)

〈現状数値:平成24年度〉
約7,500人/日

〈現状数値:平成24年度〉
約9,300人/日

〈現状数値:平成24年度〉
約264,000人/年

〈現状数値:平成24年度〉
約112,000人/年

〈数値目標:平成30年度〉
約8,600人/日

〈数値目標:平成30年度〉
約10,300人/日

〈数値目標:平成30年度〉
約290,000人/年

〈数値目標:平成30年度〉
約123,000人/年

⑦基本計画の事業



市街地の整備改善 21事業

クオリティ道路整備事業
中央公園の再生・整備事業
東栄公園整備事業
菱田春草生誕地整備活用事業
仲ノ町まちなみ環境整備事業
桜並木整備事業
りんご並木再整備事業
扇町公園整備事業
中心市街地アクセス道路整備事業
中央通り線まちなか空間整備事業
裏界線活用・整備事業
観光案内サイン整備事業
景観形成推進事業
歩行者優先道路整備事業
中心市街地無電柱化事業
御用水再生事業
コミュニティ空間整備事業
市本庁舎整備事業
愛宕蔵改修活用事業
空家対策事業
防犯カメラ設置事業

都市福利の推進 8事業

旧飯田測候所活用事業
子育て・子どもサロン等の拠点整備事業
お年寄りサロン等の機能強化事業
コミュニティ形成・公共施設機能強化事業
まちなか健康福祉拠点活用事業
扇町公園活用事業
りんご庁舎再整備事業
美術博物館改修事業

まちなか居住の推進

4事業

まちなか住宅開発事業
まちなか住宅・オフィスバンク促進支援事業
まちなか居住・就労促進プログラム
大都市圏のセカンドオフィス・セカンドハウス等誘導事業

商業の活性化

21事業

りんご並木周辺商業施設等整備事業
歩行者優先道路活用事業
地域ミュージアムを活かしたまちづくり事業
りんご並木賑わいづくり事業
ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ開催事業
飯田りんごん開催事業
いいだ人形劇フェスタ開催事業
文化的・商業的イベント実施事業
地域ブランド開発事業
まちなかゼミナール開催事業
観光資源開発とネットワーク化事業
空店舗活用と起業支援事業
桜並木活用事業
人形劇のまちづくり推進事業
南信州食文化マーケットの創設事業
馬車等運行事業
フィルムコミッション設置事業
まちなか観光活性化事業
まちなか情報発信事業
伊那谷の自然と文化研究ネットワーク構築発信事業
橋北まるごと博物館推進事業

公共交通機関の利便性の増進

6事業

駅周辺及び駅前ストリートの整備事業
環境配慮型まちづくり事業
公共交通利用促進事業
拠点型駐車場整備事業
電気小型バス運行事業
補完的交通手段(自転車等)の導入事業

ここに掲載した事業は、計画期間の5年間で実施が想定される事業である。各事業ごとに背景や成り立ちは違っており、5年間で完了するもの、調査・研究に着手するものなど様々である。

地域における合意形成や自らの発意と行動が重要であり、公共事業については年度ごとに予算措置の図られたものから着手するものとする。

これら民間・公共事業実施に当たっては、地域の課題解決に向けて、地元住民・関係団体等・行政が一体となって研究及び活動することを旨とする。